



▲がんばる徹師匠

*松瀬ナマ子って誰だっけ……としらじらしく
その事件のことを知りたい！

「はい、もう一回やり直しーっ！」
「それやったらお手本め

「は、これはこりね。」
「はい、これはこりね。」
「ほな師匠と呼ばせてもらうわ！」と本人の了解を得、それ以来ずっと私の師匠なのである。お互い「にゆううえいぶ」を去った今でも……

話を戻すが、そんな師匠が必死に何度もチャレンジしている姿を見るのはポケモンゲーム以外では何年振りだっただろうか。
最終的に少しは出

みやこ
宮古ツアー報告 第2弾
プハーツと息を吐き出
して、海から顔が上がる。
まま水中で呼吸が出来
ない。何度もチャレン
マウスピースをくわえた
ジするがだめだ。

ダイバーの先生も根
気よく、幾度となく熱
心に教える。すぐ横で
見ている私も思わず声
が出る。ー「頑張れ、
師匠！」と……

このピース通信の
創刊号の最初の
記事が金城さんを
囲んで唄う会だっ
た。1年とんで今

ピースクラブ通信

No.15

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
住所 〒55610014 大阪市浪速区大田1丁目11-1
連絡先 06-6664712077
Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

ピーコラ

▼こんな通信をつくり
続けて30年、前いた所は年
に2、3号、ピースでは毎月
を目指したが、隔月で落ち
着いた。紙面づくりは韓さ
んがやってくれているので
楽になった▼よくあんだの
は機関紙らしくないと言わ
れる。障害者運動について
まったく疎いからかもしれ
ないけれど、それはそれで
よいのではと思っている▼
キューパ、ダイキリ、沖繩、
スキューバダイビング、一
見無関係に思えることがす
べてつながった世界の中で、
私たちは生きています。障害
があるなしに係わらずに。
だからこれからもいろいろ
な人に原稿を書いてもらい
たいと願っている。

(普)

来るやうになつたみたいだが、海に潜ることほそくたやすくなくかつたようだ。本人は相当気落ちしている様子だったし、その話には触れずに夜をやり過ごした。

これは五月の中村晋作画伯の個展に合わせたのツアーの一場面。

瞳さんは個展会場カフェ373(なんと朝子さんの家のお向かい)

ピースクラブとの出会いは、06年11月にキューバを共に旅行することから始まった。

私は36年前にサトウキビ刈りのボランティアでキューバで4ヶ月生活した。06年

ピースクラブとSHANE

であ

板谷 英夫

の旅行はその時のキューバ人との同窓会が目的である。初めてキューバに行く方も何人かおられ、その中にピースクラブのメンバーがいた。36年前のキューバへの入国は、メキシコ経由で入っ

のワンちゃんも戯れていらつしやつたし、私のお土産《鳥ぞうり》

買った物ツアーのオプシオンがあつたり、一日遅れで奥山組とも合流出来たし、個展会場で晋作画伯の作品展も手伝うことが出来たし、なかなかの旅であつた。

あの松瀬ナマコ事件が無ければ・・・河栄KOEI

ている。キューバ危機の後、乗客はCIAの手先の職員に全員が顔写真を写されるという状態だった。

今回の入国もカナダ・トロントからの入国だが、9・11以降の厳しいチェックがあり、非常に時間がかかる手続きを強いられた。

どちらにしても、地球の裏側の国へ、1泊2日の飛行機の旅は、キューバが遠い国であることを感じさせる。

まして、飛行機のトラブルで思ったように接続便に連絡していかないと、気持ちが悪くもさしてしまふ。ピースクラブの面々と、正直ゆつくり話す時間などないのが現状だ。夜おそくにトロント空港の近くのホテルに落ちつき、入国の厳しさと

明日キューバに入るとなつて、やつと話ができるようになる。いや共に苦労した仲間

という連帯感がでてきたのではなからうか。仲間になるという連帯感、事件がおき



▲ヘミングウェイお気に入りの店「フロリダータ」

ないと思われ、生まれだろ、同じ思いを成しとけるといふ行動がなければ生まれなもので、いざハバナへという飛行機もまたトラブルにみまわれた。すでに乗客も席につき、出発かと思われたのだが、メカニックがピットを何度も出入りして出発しない。1時間ほどして「機を交換せずに出発します」という機長のアナウンスがあったのに、30分後に飛行機はハバナに向けて飛び立った。午後3時ハバナ着。ハバナ旧市街のホテルに宿泊。さて、連帯感、困難なことだけではなく、楽しい事もまた人をそうさせるものである。夕食後、誰かが声をかけて、ヘミンクウェイが愛したダイキリを飲みに行こうと言う。例の「フロリダータ」はホテルから歩いて5分程度。春さん、大西さん、中村さん、森本さんと10人程度のメン

バーの中にいて、おもいきりハバナの夜を楽しんだ。キューバ旅行中の1週間、私たちが夫婦を含めたピースクラブの面々は、何にかにつけて酒を飲んでいたように思えるし、ハバナ最後の夜も、キューバダンスのバーで夜を楽しんでいた。私の36年ぶりのキューバ訪問は、70年当時のキューバ人相棒フィリップも一度会いたいという思いで旅行したし、彼にも再会することが出来た。たまたま、

三線センセイの

キューバ滞在記(2)

酒井さとこ

その旅に春さん、大西さん、中村さん、森本さんが参加していたことで、私は別の旅の意味ができたようだった。旅行を終えてのち、何度かみなさんと会ってみると、古い私の友人が共通の友人であったり、私たちが夫婦が福祉の仕事をしているという共通があったり。人との出会いとはこのように出会ってゆくものだということを感じながら、月に1度は「キジムナー」にかよっている。

光客がやってくる。外国人はキューバ人が一生働いても手に入れない物をもっと簡単に「資本主義」国から持って来ることを目にする。「社会主義」のこの国から出れば欲しい物全てを手に入れられると夢を抱いても仕方がないかもしれない。だから、街を歩く外国人は彼らにとつては「金」でありこの国を出るための「パスポート」なのだ。キューバにはヒネテロ(女性にはヒネテラ)と呼ばれる言葉がある。外国人に近寄って「恋人」となり、金や結婚を手にするのだ。

しかしマイケルは少し違っていた。しばらくして映画を見に行こうと誘われたとき、映画代からお菓子代、果てはジュエックボックス代まで全て払ってくれた。私にとつてはたいしたことのない金額でも、彼の一日分以上の給料に値するだろうその金額を考えると、私の頭の中はお金の換算でいっぱいだった。申し訳ない、とこちらが幾らか払えば、恥ずかしいから次はおごらせてくれときりがなかった。当時、私は2ヶ月に及ぶロスとパッケージのため、ほとんど何もものを持っておらず、服も人から借りた数枚を着回していたのだけど、マイケルは私よりも何も持っていないよ、うで、いつも同じ服だった。口がうまくて調子のいい他のキューバ人とあまりにも違いすぎる。疑問に思ったころ、彼が私のカサにマン

(前号からのつづき)
多くの、特に若いキューバ人はこの国を出たがっていた。教育や医療はただの国だが、いくらか働いても先進国の時給程度で月給

しかもらえず、彼らの欲しいものは何も買えない。公の場所でも物を言う自由もないければ将来の可能性もない(と思っている)。観光都市ハバナには多くの外国人観

街を歩けば退屈しないくらい声をかけられ、みなとても親しみやすい。しかし、彼らは彼らでそれなりの目的があるのだ。純粋に異文化に興味があつてという人もいるだろう、しかし警戒は必要だ。私もマイケルに対してやはり警戒していた。



▲6月22日 金城清幸さんを囲んで、唄う会
 右から3人目金城清幸さん、4人目が筆者の酒井さとえさん

ゴーを届けてくれた。カサの主人に友達からもらったとそのマンガーを渡すと、主人は私に「彼のことは小さい問題があるけどね」と頭を指差したときに初めて気が

がついた。「キューバはとてもいい国だよ。とても美しい。経済的に問題はあ

から君にもキューバのいい所をいっぱい見て君の友達や家族に教えて欲しいんだ。」と仕事が休みの日曜日色んな場所に私を誘ってくれた。僕の「おじいさん」といつも座っている道路沿いにある古本屋のおじいさんを紹介し、勉強のためにとその店でスペイン語の辞書を買ってくれた。辞書は

法外な値段だったがマイケルが払った。そのときのおじいさんの驚いた表情にその値段が外国人用にふっかついた値段であることに私は気づいたけれども、マイケルはその法外な値段を怪しむことなく払った。警戒していたことが申し訳ないと思うようになった。(つづく)

これからのスケジュール

- 8月1日(金)～4日(日)
静岡・青部キャンプ
- 8月13日(水)～17日(日)
ピースクラブ夏休み
- 9月7日(日)
八木裕樹・新出恵里香さん結婚パーティー
- 9月14日(日)
エイサー祭り(大正区・千島公園)